

## 千葉市民活動フェスタ2022

今年は、シン・フェスタ  
未来の千葉が見えてきた

千葉市民活動フェスタ2022は、オンラインと、きぼーるアトリウムでの対面プログラムというハイブリッド開催。久々の対面開催に「同じ場で顔をあわせる意義」を実感した方も多かったのではないのでしょうか。

## 千葉市民活動フェスタ2022無事終了!!

### ■今年は、シン・フェスタ 未来の千葉が見えてきた

千葉市民活動フェスタ2022は、オンラインと、きぼーるアトリウムでの対面プログラムというハイブリッド開催。久々の対面開催に「同じ場で顔をあわせる意義」を実感した方も多かったのではないのでしょうか。

今回はオンラインプログラムに40団体、きぼーるには18団体が参加しました。

### ■オンラインプログラム

**【団体紹介】** 期間中、ネット上の特設サイトに各団体の紹介ページを開設。活動内容等の紹介をし、団体のサイトにもリンクできるようにしました。

**【ちばさぼTV】** 19日のきぼーるの様子を動画撮影して配信。これには今年初参加の、まだ10代の実行委員が撮影や編集に大活躍してくれました。

**【1分シアター】** 今年の新企画(シン企画)の一つは「1分シアター」。団体紹介ページとは別に、各団体が自由に作った1分ほどの動画を特設サイトで紹介する企画です。だれもが動画を作れるよう、マニュアル作り、ワークショップの開催と、実行委員会が大いに力を入れてくれました。

### ■対面プログラム

**【団体ブース】** 対面会場は間隔を充分にとってブースを設け、相談や体験、物販などを展開。オープニングには市長も来場し、あいさつの後はご自身のスマホも取り出しながら、各団体のブースを熱心に回っておられました。

**【交流ひろば】** 一般の方にもっと「フェスタ」に来て頂こうと、「だれでも参加できる抽選会」を実施しました。初の試みでしたが、各団体から多彩な賞品のご協力を頂き、大いに盛り上がりました。改めて御礼申し上げます。

### ■未来が見えてきた?

ここ3年は毎回、形式を変えての開催となりました。安心・安全に配慮しながら、いかに交流の場を作っていくかが課題です。これまでにない形が求められる中、若い委員の参加は心強い限りです。ベテラン勢も頭を柔軟に、新しいフェスタの形を考えていきましょう。



## ミニコラム ちばさぼの風 vol.53

## 市民活動の新しい形 労働者協同組合

### ■働き方が広がる

令和4年10月1日に「労働者協同組合法」が施行されました。同法の第1条には以下のように書かれています。

「…多様な就労の機会を創出することを促進するとともに、当該組織を通じて地域における多様な需要に応じた事業が行われることを促進し、もって持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを目的とする」

詳しく説明しようとするれば何千字も必要ですが、ザックリ表現すると「日本での働き方の選択肢が増える」ということです。これまでは、「志を同じくする人が、資金を出し合って、話し合いながら活動を進める」という形について、該当する法律がありませんでした。小さな組織であれば問題はありませんが、大きな仕事に取り組む場合「法人格」を待たないと契約も交わせず、団体として資産を持つこともできません。「お金を出す人が意見も出し合いながら働き、報酬を得る」という形を、法律で保障したのが労働者協同組合といってもよいでしょうか。

### ■出資・経営・労働

労働者協同組合は、定められた出資をすれば組合に加入でき、脱退も自由です。出資金の額は、組合ごとに決めことができ、経営に際しては、出資口数にかかわらず、一人一票の発言権があります。

労働者派遣事業以外であれば何の分野の事業もできるので、子育て支援、介護、環境保全など、これまでボランティアに頼ることの多かった地域課題の解決に、多くの人が「仕事」として関わられるようになります。また、法人格を持つことにより、働いた人はその経験を職歴として履歴書に書くことができるので、副業や兼業でもキャリア形成が可能になります。経験豊富な高齢者の活躍の場としても、期待ができそうです。

### ■働き甲斐につながるか

幅広い人が参加でき、設立の要件も従来の法人に比べて容易なので、労働者協同組合は後継者問題の解決にも効果が期待されます。例えば、後継者がいない中小零細企業の場合、働いていた人たちが出資して労働者協同組合を作り、事業を継承するような例も出てくるでしょう。

働く時間も相談して決めるので、介護や子育てとの両立、副業として経験を積むなど、これまで困難だった働き方が可能になります。運営面で、合意形成に時間がかかる、出資・運営(経営)・労働が一体のため、結果的に労働条件が悪くなるといった可能性も考えられますが、働き方の多様性という点は大いに期待が持てます。現在活動している企業組合やNPO法人から、労働者協同組合に円滑に組織変更を行うための制度も設けられており、この数年の推移が注目されます。